

第24回 有壬記念学術奨励賞受賞者

新潟大院医

血液・内分泌・代謝内科学

藤原和哉氏(FH17)

この度、第24回有壬記念学術奨励賞に選出していただき、大変光栄であるとともに、日頃よりご指導賜る学士会の諸先生方に感謝を申し上げます。私は平成17年に筑波大学を卒業後、故郷の福岡で初期研修を行い、筑波大学総合診療科を経て、同内分泌代謝・糖尿病内科に入局した。平成23年に博士課程に進学し、曾根博仁教授、島野仁教授、鈴木浩明准教授の指導のもと、生活習慣病／動脈硬化領域において、少数例からビッグデータまで幅広い臨床研究を行った。平成27年より新潟大学血液・内分泌・代謝内科学教室に所属し、多くの医学生／大学院生とともに、生活習慣病／動脈硬化分野における疫学研究を継続中である。これまでに本県、及び全国のリアルワールドデータを用い、小児期から高齢期にわたる生活習慣病予防および循環器疾患／介護発生リスクに関する研究成果を報告した(Diabetes Metab. 2017, Pediatr Diabetes. 2018, Ann Vasc Dis. 2018, Diabetes Metab. 2018, Diabetes Metab Res Rev. 2019, J Clin Endocrinol Metab. 2019, Metabolism. 2019, Invest Ophthalmol Vis Sci. 2019, Diabetes Ther. 2019, J Am Heart Assoc. 2019, BMJ Open Diabetes Research & Care. 2020)。引き続き、教育・臨床・研究を通じて、



2019年米国糖尿病学会にて撮影
後列右端が曾根博仁教授、前列右から3番目が筆者

本学におけるphysician scientistの育成に従事し、研究面では機械学習を融合した個別化医療の分析に取り組む所存である。

最後に、これまでご指導をいただいた諸先生方、温かく見守り、熱心にご指導いただいた曾根博仁教授、また、一緒に研究に取り組んだ医学生／大学院生に厚くお礼申し上げます。

新潟大院医

呼吸器・感染症内科学

穂苅諭氏(DH18)

この度、第24回有壬記念学術奨励賞に選出頂き大変光栄であり、学士会の諸先生方に深謝を申し上げます。私は平成18年に本学を卒業後、平成20年に本学旧第二内科学教室(現呼吸器・感染症内科)に入局した。腎臓・呼吸器を始めとした内科診療の研修後、本学博士課程に進学した。呼吸生理グループに所属して研究を行い、平成27年に学位を取得した。その後、平成28年〜平成30年度に東京大学大学院医学系研究科分子病理学分野に国内留学の機会を得た。宮園浩平教授および鯉沼代造准教授の指導のもと、肺癌細胞株を用いた次世代シーケンサーによる遺伝子発現やエピゲノムの網羅的解析から、転写因子であるTFEBの小細胞肺癌におけるがん促進的機能を明らかにすることができた(Mol Oncol. Epub2019)。今回の受賞を励みに今後とも研究を継続していく所存である。

最後に、ご指導を賜った東京大学の研究室の先生方ならびに国内留学の機会を与えて頂いた菊地利明教授と呼吸器・感染症内科の諸先生方に厚く御礼申し上げます。



東京大学分子病理学教室の教授室にて撮影
左が宮園浩平教授、右が筆者

京都大院医 血液・腫瘍内科

平林茂樹氏(DH25)

これまで数々の偉業を成し遂げられ、諸先生方が受賞された有壬記念学術奨励賞に選出頂き、大変光栄である。本学生時代には、諸先生方のご尽力のおかげで様々なことに挑戦でき、大変感謝している。私の場合、3度の海外短期留学を体験させて頂き、また赤澤教授・若井教授小杉教授の御指導の元、胃癌術後の予予測モデルの論文を発表することができた(Ann Oncol 2014)。さらに、佐藤教授・柴田教授(現鹿児島大学)の御指導の元、iPS細胞の分化と脱分化の研究を行い学会発表することができた(第百十七回日本解剖学会総会)。平成25年に本学を卒業後、横浜市立大学附属病院で初期研修を修了し、平成27年に京都大学医学部附属病院血液内科で後期研修を行い、平成28年に京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学に進学した。次世代シーケンサーを用いたデータ解析に興味があり、トランスクリプトーム解では国内有数の研究施設である横浜の化学研究所で村川チームリーダー(理学研究所)・高折教授(京都大学)の御指導の元研究を行なった。私の研究は遺伝子の作用を増大させる作用をもつシスRNA因子であるエンハンサーについてであった。近年、エンハンサーは、それ自体からもエンハンサーRNAを転写していることが明らかになった。しかしながら、エンハンサーRNAの半減期は非常に短く、これまで十分な感度で検出することができなかった。そこで我々はエンハンサーRNAを含む半減期の短いRNAを、感度でゲノムワイドに検出する新たな法を開発した(Nature Genetics 2019)さらに本技術を用い、エンハンサーの活性化が遺伝子の活性化に先行するという

